人づくり“特別座談会”

必要とする組織はない

地域農業をどのように振興していくのか、組合員の暮らしを支えるJAの総合事業性をいかに発揮するのか。事業伸長と協同組合らしいJAづくりをどのように進めるか――。こうしたJAの基本問題が浮き彫りになる中、その解決の手段として、人材の育成や教育事業の強化が求められています。教育分野からも、こうした課題の解決方法を探ろうと、今村奈良臣さん（東京大学名誉教授、JA総合研究所所長）の呼び掛けることとなりました。

そこで、JA人づくり研究会を通じた今後のJA教育事業のあり方を明らかにするため組合員および役職員の代表者による“特別座談会”を紙面で編集しました。

何故、いま教育なのか

今村奈良臣さん　私の持論には「JAと人材を必要とする組織はない」という言葉があります。もちろん他の組織も人材を必要としますが、それ以上にJAは人材を必要としております。それは、JAが農村という地域を基盤につくられた人との結合組織であり、地域内の多様な農業・多彩な農業者の活力を引き出す司令塔としての役割を持っているからです。同様に「農業ほど人材を必要とする産業はない」とも思っています。農業で必要とされる人材とは、経営のことだけを考えるのではなく、地域の人たちの暮らしや営みを総合的に考えるリーダーの存在が欠かせません。どのようにしてリーダーの育成に取り組んでいくかが、

遠藤さん　リーダーの役割だと思います。次のリーダーを育てることこそ、JA尾鈴青年部では、青年部長は必ず次の青年部長になる人を育てることになっています。だからこそ、次の青年部長は君だ」ということを、活動でいえば、組織の頭に立って「全体を引っ張るリーダーの存在が欠かせません。

池田さん　生き活き塾の活動の中から、「五つくり畑」や「楽の花プロジェクト」「朗読ボランティア」あんの広場」などの目的別の活動が誕生しました。これは、塾で学んだことを主体的に実践したいというリーダーたちに、地域の人たちに対して、「今度こういった活動を一緒にやってみないか」と呼び掛けて、仲間を集めてきました。

この結果、生き活き塾には、女性農業者はもちろん、「あんしん」の会員や学校給食を考える会、農村生活改善グループなどのリーダーもたくさん加入しています。

今では、地域に認められる自主参加型組織になっています。

青柳さん　支店における活動のリーダーは支店長です。支店行動計画の策定・実践は、支店長の手腕にかかってきます。そのため支店長の裁量も大きくなっています。

今村 奈良臣（いまむら ならおみ）さん

JAは農業者の活力引き出せ 起こそう手作りイノベーション

常勤役員の相互学習の場 「JA人づくり研究会」への参加を

農業後継者は経営者であれ 地域活動を通じ若者は成長

遠藤 威宣（えんどう たけのり）さん

青柳 博也さん　営農、信用、共済などをはじめとする総合事業に取り組むJAにとって、組合員や利用者に顔を合わせ、事業・活動の最前線とならなければ要望や課題は聞けません。そこでJA福岡市では、支店に成3年から事業の再構築を進め、支店と本店の仕事の分担を明確にしました。支店の職員は事業推進や支店職員の手腕にかかっていますが、地域で読み取り組織化も出ています。

今、支店では「田んぼの学校」を実施しています。2種類の米を使って水田に字を描く取り組みですが、併せて地域住民と一緒に収穫や農産物の販売、伝統芸能などを楽しむイベントになっています。

青柳さん　JAは組織の活性化を図るため平成16年に「組織活性化プロジェクト」を設置し検討を重ねてきました。その中で「組織活性化基本方針」を策定し組織なくしてJAなし」と結論付けました。これを基に、女性部や青年部、農協の活動の基盤組織の活性化に着手し支店行動計画の中で実践しています。

また、組合員の加入促進運動で組織基盤を強化するとともに、組合員と対象とした教育文化活動にも取り組んでいます。

遠藤さん　尾鈴地区では毎年、非常に多くの後継者が誕生しています。農業に限らず、漁業でも多いと聞きます。これは、後継者づくりが地域全体の課題だと、みんなが考える各段階で取り組みを行われています。

今村奈良臣さん　営農と暮らしの向上を実現するため、JAは地域にいる多様な人材と連携することが大事です。そうした人たちを活用していく「仕事興しセンター」となるべきです。それぞれのJAにおける営農と暮らしを向上させる取り組みについて論じたことが、理事会の総代会やJA運営を決める場における議論の基盤となっています。また、組合員をはじめ、JA全体で組合員が抱えている問題をうち上げ把握できるようにもなりました。

JAには、地域の問題解決の拠点としてもっとリーダーシップを取ってほしいです。まの高齢者の中には、体が動く限りは働きたいという人はいっぱいおられます。JAはそういう方に対して、例えば地元で農産物を使った加工品づくりなどで、仕事興しをすべきだと考えます。

青柳さん　耕作者の高齢化により、耕作放棄地が増えています。農地については、地域の人たちが、「今度こういった活動を一緒にやってみないか」と呼び掛けて、仲間を集めてきました。

池田さん　生き活き塾には、女性農業者はもちろん、「あんしん」の会員や学校給食を考える会、農村生活改善グループなどのリーダーもたくさん加入しています。

今では、地域に認められる自主参加型組織になっています。

青柳さん　支店における活動のリーダーは支店長です。支店行動計画の策定・実践は、支店長の手腕にかかってきます。そのため支店長の裁量も大きくなっています。

今村さん　営農と暮らしの向上を実現するため、JAは地域にいる多様な人材と連携することが大事です。そうした人たちを活用していく「仕事興しセンター」となるべきです。それぞれのJAにおける営農と暮らしを向上させる取り組みについて論じたことが、理事会の総代会やJA運営を決める場における議論の基盤となっています。また、組合員をはじめ、JA全体で組合員が抱えている問題をうち上げ把握できるようにもなりました。

JAには、地域の問題解決の拠点としてもっとリーダーシップを取ってほしいです。まの高齢者の中には、体が動く限りは働きたいという人はいっぱいおられます。JAはそういう方に対して、例えば地元で農産物を使った加工品づくりなどで、仕事興しをすべきだと考えます。

青柳さん　耕作者の高齢化により、耕作放棄地が増えています。農地については、地域の人たちが、「今度こういった活動を一緒にやってみないか」と呼び掛けて、仲間を集めてきました。

池田さん　生き活き塾には、女性農業者はもちろん、「あんしん」の会員や学校給食を考える会、農村生活改善グループなどのリーダーもたくさん加入しています。

今では、地域に認められる自主参加型組織になっています。

青柳さん　支店における活動のリーダーは支店長です。支店行動計画の策定・実践は、支店長の手腕にかかってきます。そのため支店長の裁量も大きくなっています。

地域興しとJAの役割

今村さん　営農と暮らしの向上を実現するため、JAは地域にいる多様な人材と連携することが大事です。そうした人たちを活用していく「仕事興しセンター」となるべきです。それぞれのJAにおける営農と暮らしを向上させる取り組みについて論じたことが、理事会の総代会やJA運営を決める場における議論の基盤となっています。また、組合員をはじめ、JA全体で組合員が抱えている問題をうち上げ把握できるようにもなりました。

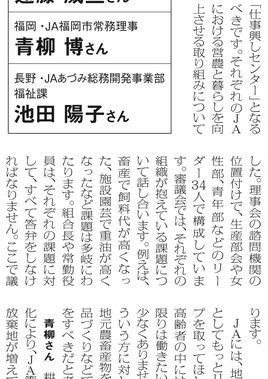
JAには、地域の問題解決の拠点としてもっとリーダーシップを取ってほしいです。まの高齢者の中には、体が動く限りは働きたいという人はいっぱいおられます。JAはそういう方に対して、例えば地元で農産物を使った加工品づくりなどで、仕事興しをすべきだと考えます。

青柳さん　耕作者の高齢化により、耕作放棄地が増えています。農地については、地域の人たちが、「今度こういった活動を一緒にやってみないか」と呼び掛けて、仲間を集めてきました。

池田さん　生き活き塾には、女性農業者はもちろん、「あんしん」の会員や学校給食を考える会、農村生活改善グループなどのリーダーもたくさん加入しています。

今では、地域に認められる自主参加型組織になっています。

青柳さん　支店における活動のリーダーは支店長です。支店行動計画の策定・実践は、支店長の手腕にかかってきます。そのため支店長の裁量も大きくなっています。



今村 奈良臣（いまむら ならおみ）さん

JAは農業者の活力引き出せ 起こそう手作りイノベーション

常勤役員の相互学習の場 「JA人づくり研究会」への参加を

農業後継者は経営者であれ 地域活動を通じ若者は成長

遠藤 威宣（えんどう たけのり）さん

青柳 博也さん　営農、信用、共済などをはじめとする総合事業に取り組むJAにとって、組合員や利用者に顔を合わせ、事業・活動の最前線とならなければ要望や課題は聞けません。そこでJA福岡市では、支店に成3年から事業の再構築を進め、支店と本店の仕事の分担を明確にしました。支店の職員は事業推進や支店職員の手腕にかかっていますが、地域で読み取り組織化も出ています。

今、支店では「田んぼの学校」を実施しています。2種類の米を使って水田に字を描く取り組みですが、併せて地域住民と一緒に収穫や農産物の販売、伝統芸能などを楽しむイベントになっています。

青柳さん　JAは組織の活性化を図るため平成16年に「組織活性化プロジェクト」を設置し検討を重ねてきました。その中で「組織活性化基本方針」を策定し組織なくしてJAなし」と結論付けました。これを基に、女性部や青年部、農協の活動の基盤組織の活性化に着手し支店行動計画の中で実践しています。

また、組合員の加入促進運動で組織基盤を強化するとともに、組合員と対象とした教育文化活動にも取り組んでいます。

遠藤さん　尾鈴地区では毎年、非常に多くの後継者が誕生しています。農業に限らず、漁業でも多いと聞きます。これは、後継者づくりが地域全体の課題だと、みんなが考える各段階で取り組みを行われています。

**今村奈良臣